

DRS-101 取り付け説明書

開封にあたってのご注意

- 箱から出す際は慎重に行ってください。重量がありますので、落下などによる怪我に気をつけて作業願います。
- 中身を取り出し、傷が付かないようにボール紙か布等を敷いてその上に静かに置いて下さい。
- 添付してある部品リストに記載された部品が損傷なく、全て揃っているかよく確かめて下さい。
- 組み立てる前に本取り付け説明書を良く確認してから、組み立てを始めて下さい。

安全にお使いいただく為の重要事項

- 実際に組み立てる前に、本取り付け説明書をよく読み、組み立ては本取り付け説明書に従い慎重に行ってください。
- 各部品は、本来の目的に即して使用するよう、ネジの大きさ・長さなど、ご注意ください。



ご注意

本製品は、内装・電気等の専門業者が取り付けするように設計されています。組み立て、及び取付け不備等による事故について保証等は一切ございませんので、作業に際しまして十分にご注意くださいますようお願いいたします。
・少しでもわからない事や安全な取り付けに疑問が生じた場合は、専門業者にお尋ねください。
・本商品テレビへの取り付け方等について、はっきりしない場合でも専門業者にお尋ねください。

【事故損傷について】

誤った組み立て、取り付け不良、取り付け強度不足、本来の目的以外の利用、および、天災等による事故等については一切の責任を負えませんのでご了承下さい。

推奨工具

- ・約 8mm 石エビット
- ・約 4mm ドリルビット

- ・フィリップススクリュードライバー
- ・補強材探知器

- ・ソケットレンチセット
- ・水平器

組み立て設置上のご注意



本商品のボルト、ワッシャー類などは全て確実に取付けてください。不完全な組立ては落下事故の原因となります。各パーツの取付箇所、取付方向を正確に行う為に、組立説明書をよくお読みになり、最適な場所に最適な方法で確実に取付けてください。



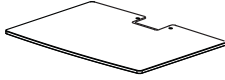
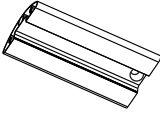
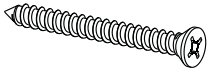
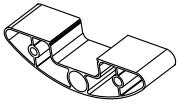
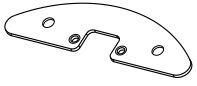
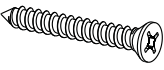
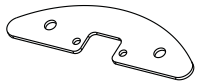
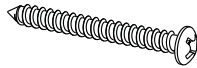
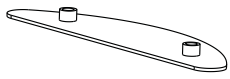
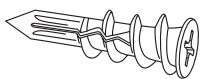
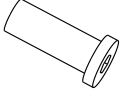
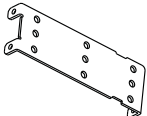
次のような場所には設置しないでください。機材等が落下して、けがや破損の原因となります。

- ・屋外や海岸、温泉に近い場所。
- ・動力用電源配線、空調機器、防磁型ではないスピーカーに近い場所。
- ・人がぶら下がったり、寄り掛かったりするような場所。
- ・ぐらついたり、傾いた不安定な場所。
- ・振動や衝撃のある場所。



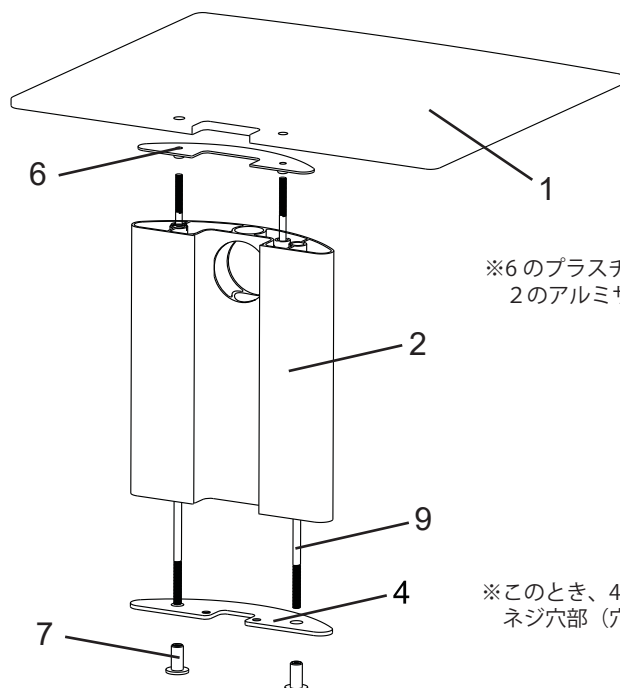
電気工事は、専門業者にご依頼ください。設置時に（芯線の露出、断線など）電源コードを傷め、そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。
作業スペースは十分に確保して下さい。けがや破損の原因となります。
設置場所に通っている配線、配管を確実に避けてください。火災、感電の原因となります。

- ・本製品は、必ず定められた重量内の荷重ラックとしてご利用ください。
- ・本製品は、壁掛け液晶テレビに加える事によって、お部屋をスマートに演出する事が可能なAVラックです。

パーツリスト							
No.	イラスト	部品名	個数	No.	イラスト	部品名	個数
1		ガラス棚板	1	13		六角レンチ	1
2		アルミサポート (長)	1	14		M6x60mm アンカーボルト	4
3		アルミサポート (短い)	1	15		コンクリート アンカー	4
4	 ※片面ネジ穴部にくぼみが付いています	サポートカバー (上用)	1	16		M6x30mm アンカーボルト	6
5		サポートカバー (下用)	1	17		石膏ボードアンカー 専用ボルト	6
6		プラスチックカバー	2	18		石膏ボードアンカー	6
7	 ※9.支柱パイプについています	支柱パイプヘッド	2	19		壁側ボルト共通 ワッシャー (1.6mm厚)	6
8	 ※9.支柱パイプについています	支柱パイプ底ネジ	2	※14～18のボルト・アンカーは取り付ける場所に応じて使用しない部品が出てきます。			
9		支柱パイプ	2				
10		壁側プレート	1				
11		上止め用ボルト	2				
12		下止め用ボルト	2				

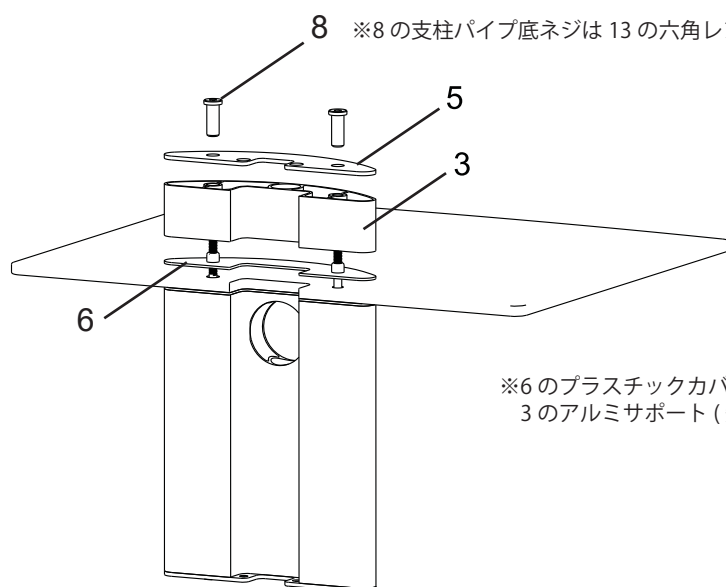
本体の組み立て

※まず本体を組み立てます。組み立て時、上下が逆さの状態を組み立てると支柱パイプ底ネジ等を締めやすくなります。(図では上下逆さで組み立てています。)



※6のプラスチックカバーは、パイプ穴が凸になっている面が2のアルミサポート(長)の方になります。

※このとき、4のサポートカバー(上用)のネジ穴部(穴の小さい方)が少しくぼんでいる面を下に向けてください。



※8の支柱パイプ底ネジは13の六角レンチを使用してしっかりと締めつけてください。

※6のプラスチックカバーは、パイプ穴が凸になっている面が3のアルミサポート(短)の方になります。

壁面プレートの取り付け

※壁面の種類に応じて適切なボルトを使用してください。

付属の部品では取り付けが困難な場合、別途適切な部品類をご用意ください。

※コンクリートへの取り付けは、個人では大変難しい作業となります。

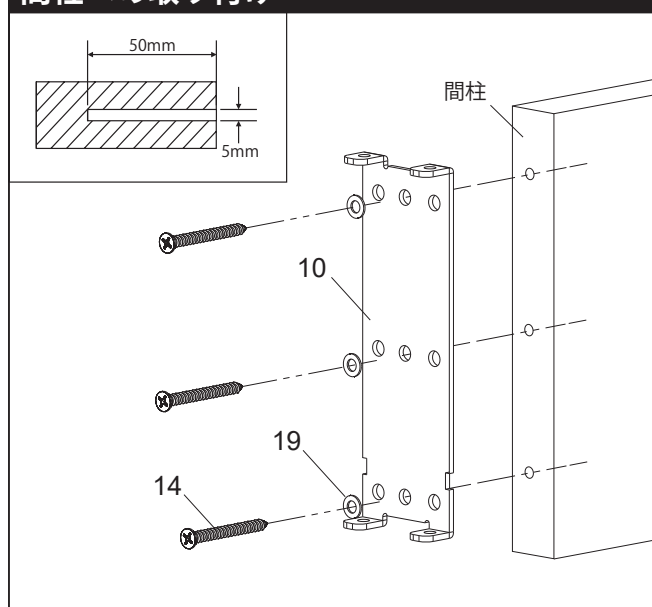
コンクリートへの取り付けは専門の内装業者や電設業者様による設置工事お勧め致します。

また、コンクリートに限らず間柱や石膏ボードへの取り付けもご自身での取り付けが不安であれば業者様へ工事の依頼を行ってください。

※個人でお取り付けになる場合は、落下の危険が無いよう万全の注意を払い自己責任でお取り付けください。

※壁面プレートは側面が一部へこんでいる方が下になります。
壁に取り付ける際には上下を間違えないようご注意ください。

間柱への取り付け



間柱への設置の場合

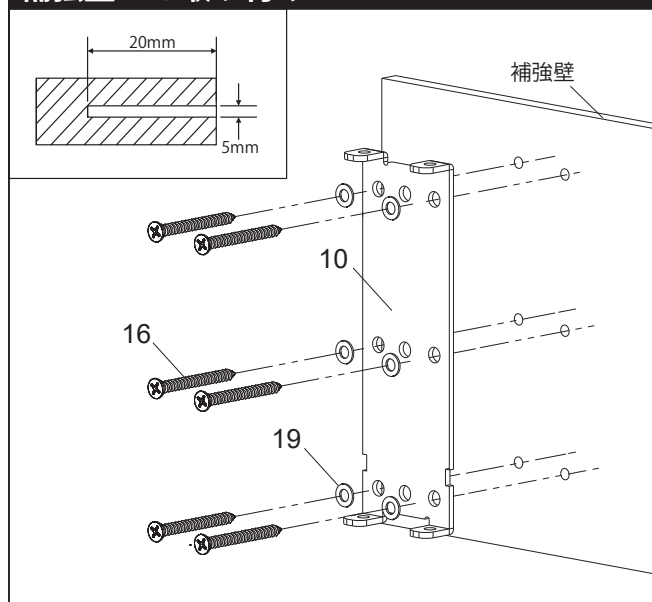
石膏ボード部に間柱センサーを当て、間柱を探します。間柱を見つけたら幅を正確に測り、中央を探ります。取り付けたい位置に壁面プレートの中央の穴が間柱の中央にくるようにあわせ、ペン等で壁面プレートの中央に空いている穴3点部に印を付けます。

印を付けた場所に左記にある幅・深さでドリルで下穴を開けます。

下穴を開けたら、ボルトとワッシャーを使用し、しっかりと壁面プレートを固定してください。

※図では分かりやすくするために一部壁面（石膏ボード等）のイラストを省いております。

補強壁への取り付け



補強壁への設置の場合

補強している壁の取り付けたい位置に壁面プレートをあわせ、ペン等で上中下を開いている穴3点のうち、各両端2点の計6点に印を付けます。

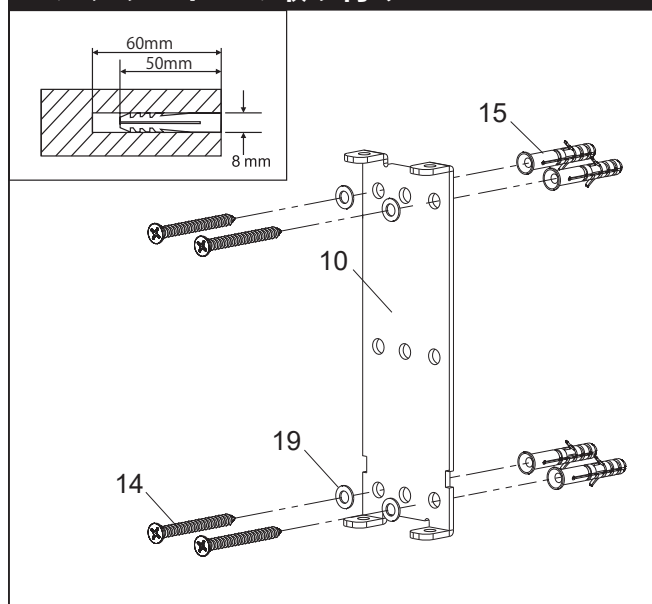
印を付けた場所に左記にある幅・深さでドリルで下穴を開けます。

下穴を開けたら、ボルトとワッシャーを使用し、しっかりと壁面プレートを固定してください。

※図では分かりやすくするために一部壁面（石膏ボード等）のイラストを省いております。

壁面プレートの取り付け

コンクリートへの取り付け



コンクリートへの設置の場合

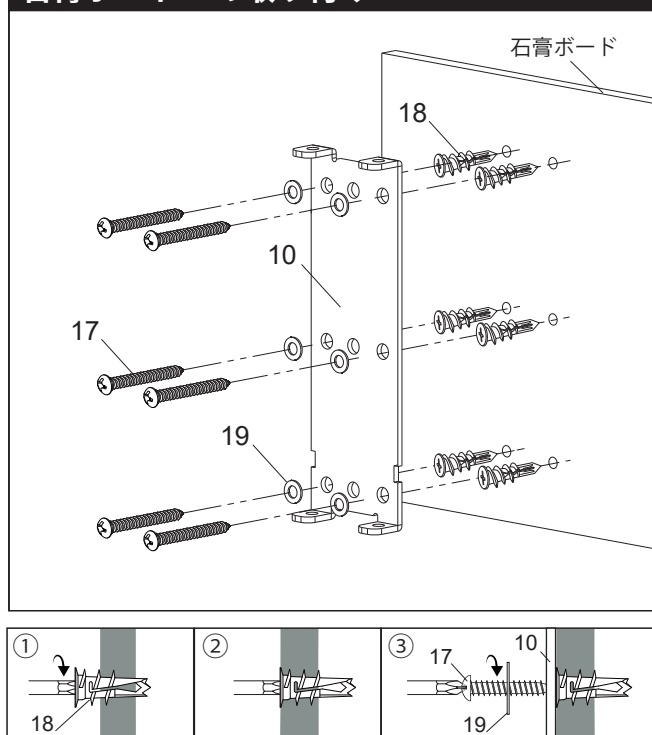
コンクリート部の取り付けたい位置に壁面プレートをあわせ、ペン等で上下に開いている穴3点のうち、各両端2点の計4点に印を付けます。

印を付けた場所に左記にある幅・深さでドリルで下穴を開けます。

下穴を開けたら、コンクリートアンカーを入れ、ボルトとワッシャーを使用してしっかりと壁面プレートを固定してください。

※図では分かりやすくするために一部壁面（コンクリート等）のイラストを省いております。

石膏ボードへの取り付け



石膏ボードへの設置の場合

石膏ボード部の取り付けたい位置に壁面プレートをあわせ、ペン等で上中下に開いている穴3点のうち、各両端2点の計6点に印を付けます。

印を付けた場所に石膏ボードアンカーを取り付けます。石膏ボードアンカーはプラスドライバーで簡単に取り付けられます。（左下の図）

石膏ボードアンカーを取り付けたら、石膏ボードアンカー専用ボルトで壁面プレートをしっかりと固定してください。

※図では分かりやすくするために一部壁面（間柱等）のイラストを省いております。

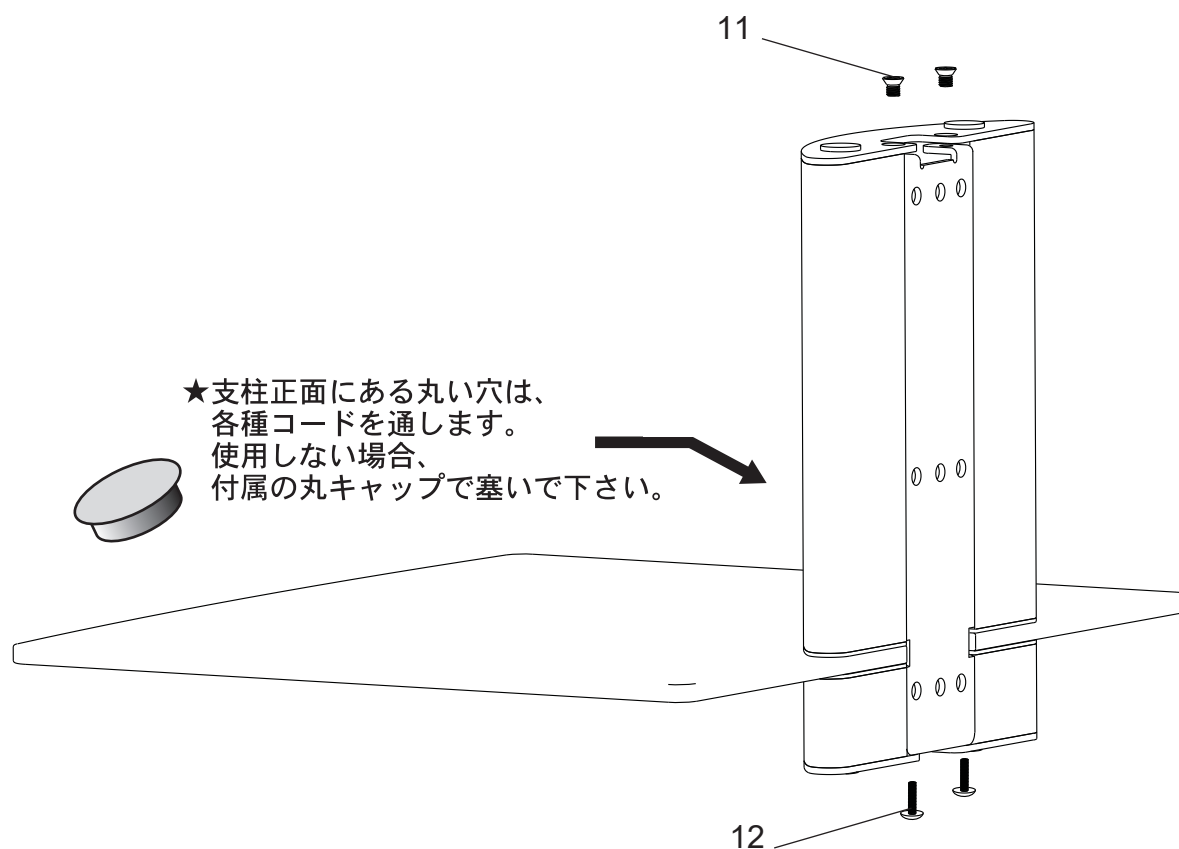
石膏ボードアンカーをそのままドライバーで石膏ボードに埋め込みます。（左図①、②）しっかりと埋め込んだあと、石膏ボードアンカー専用ボルトを取り付けます。（左図③）ボルトを埋め込むと、石膏ボードアンカーが開き、固定されます。

※石膏ボードは他の壁や柱に比べ、強度が極端に弱い材質です。
許容重量以上の重さの荷重をかけると落下する恐れがございますので、絶対に許容重量を超える物は載せないでください。
許容重量を超える物載せ、本製品が落下した場合や壁が破損した場合でも弊社は一切の責任を負いかねます。

本体の壁面プレートに取り付け

P3 で組み立てた本体を上下逆にし、壁面プレートに取り付けます。
図を参考に、壁面プレートと本体の上下に空いている各 2 点のネジ穴を合わせ、
上から順に上止め用ボルトと下止め用ボルトでしっかりと固定してください。

※図はわかりやすいよう壁を描いておりません。



ご注意

最後に・・・ 各取り付け部分にガタや緩みがないかを確認してください。
少しでも違和感がある時は、作業を中止し、専門業者にご相談ください。
この確認作業は、半年に一度実施し、問題の無い事を確認してください。